

令和元年度市町村保健事業担当者研修会開催レポート

＜開催日：令和2年1月24日（金） 会場：国保会館・大会議室＞

今年度の研修会は、令和2年度から施行される『高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施』をテーマに、埼玉県国民健康保険団体連合会（国保連合会）と合同で開催したところ、県内61市町村及び県から計155人の職員が参加しました。

○第Ⅰ部・講演① 『高齢者の特性を踏まえた保健事業ガイドラインを読み解く』



神奈川県立保健福祉大学 田中和美教授

講演①では、一体的実施の制度設計にも携われた神奈川県立保健福祉大学の田中和美教授を講師に迎え、一体的実施の背景やガイドラインのポイントについてご講演をいただきました。神奈川県大和市における低栄養防止等の取組事例も交えてご説明いただいたことで、参加者の理解も深まりました。通いの場への関与についても、高齢者に喜んでもらえるという話は、これから事業を開始する市町村職員にとっても励みになったのではないのでしょうか。

○第Ⅰ部・講演② 『保険者におけるデータ活用及び見方・分析手法の紹介』

講演②では、目白大学の藤井仁准教授を講師に迎え、データ活用・分析におけるポイントやツールについてご講演をいただきました。標準化死亡率（SMR）、医療費、健診結果といった具体的なデータを用いての演習もあり、参加者も苦戦しながら必死で取り組みましたが、データ活用の重要性が理解できたと大変好評でした。一体的実施では、データの分析と活用が非常に重要であり、今後の業務に大いに役立つものと考えます。



目白大学 藤井仁准教授

○第Ⅱ部・説明①『一体的実施の委託に向けて』&説明②『KDBシステム等の活用』

第Ⅱ部では、一体的実施の施行を目前に、広域連合及び国保連合会から、市町村への委託に関する対応方針や国保データベース（KDB）システムの機能等について説明しました。一体的実施では、後期高齢者医療部門だけでなく、介護部門等の関連課所と連携して取り組む必要があります。また、KDBを用いて地域の健康課題を分析し、効果的かつ効率的に取り組むことも重要です。

一体的実施は、地域の高齢者の予防・健康づくりのための制度です。広域連合では、市町村や保険者支援を担う国保連合会とも連携し、一体的実施を推進してまいります。

参加者の声（アンケートから抜粋（要約））

- ・ 大和市の取組が参考になった。取り入れたいと思う。＜第Ⅰ部・講演①＞
- ・ データ分析について理解が深まった。当市のデータで実践したい。＜第Ⅰ部・講演②＞
- ・ 他部門からの参加者とも共通認識を持てて良かった。＜第Ⅱ部・説明①＞
- ・ 本日得た情報を整理し、活用できるデータは活用していきたい。＜第Ⅱ部・説明②＞
- ・ 今後も合同での研修会の開催を希望する。＜全体＞